

2019（平成 31）年度 当初予算概要の説明

本学は、2026年に創立100周年を迎えることから、昨年5月の理事会において第3次中期マスタープランを策定し、「大正大学魅力化構想7ヵ年総合戦略」が認知されています。

この総合戦略は学修支援体制の充実と学生サービスの徹底が必須であり、そのために、新8号館を建設し、総合学修支援体制「DAC」を組織します。

従って、2019年度予算は、新8号館の中間時金及びDAC開設準備を中核とした編成になります。なお、DAC開設準備の予算は、2018年度から継続するもののみ当初予算に計上し、本格的な予算は補正予算で改めて計上します。

今回上程する2019年度当初予算（案）は、現行の教育・研究環境の充実を図りつつ、建築費等の財源確保を踏まえた予算編成を行いました。

金額の表記は百万円単位とし、10万円台を四捨五入します。

◎2019年度の主な支出

<新8号館建築中間時金>

新8号館の中間時金として1,200百万円を計上しました。

◎2019年度単年度の収支見込み

収入面では、地域創生学科が完成年度となるため学生生徒等納付金収入が増となりますが、入学検定料収入の減収予測などにより事業活動収入は6,582百万円（前年度比81百万円減）の見込みです。

支出面では、経常経費について2018年度補正予算額をベースに厳格に査定を行いました。ただし、学生数増による地域実習費用増（32百万円）や、図書館所蔵図書の除却（50百万円）を特別支出に計上しました。その結果、事業活動支出は6,385百万円（前年度比76百万円減）の見込みです。

以上により、2019年度の収支状況（基本金組入前当年度収支差額）は、197百万円の収入超過の見込みです。

◎当初予算（案）の主な収入、支出の変動について（資金収支予算書に基づき報告）

1. 資金収入の部

1) 学生生徒等納付金収入5,243百万円。前年度予算比10百万円増。

地域創生学科が完成年度となるため100名分増収となりますが、入学定員厳格化により入学者数を1,174名で見込んでいるため、前年度比からの増額は10百万円と予測しました。

2) 手数料収入177百万円。前年度予算比15百万円減。

入学検定料について、2018年度当初予算と同額を計上しました。

3) 寄付金収入364百万円。前年度予算比13百万円増。

時宗からの寄付金が10百万円増となることなどより増額計上しました。

4) 補助金収入572百万円。前年度予算比6百万円増。

2018年度の教育研究経費の執行比率が高いことによる2019年度経常費補助金の増加、及び、大学総合改革支援事業で2つのタイプ獲得を予測し増額計上しました。

- 5) 付随事業・収益事業収入 26 百万円。前年度予算比 3 百万円減。
2018 年度で終了した受託事業研究を踏まえた減額です。
- 6) 受取利息・配当金収入 145 百万円。前年度予算比 13 百万円増。
運用商品見直しに伴う配当金収入増を踏まえた増額です。
- 7) 雑収入 56 百万円。前年度予算比 89 百万円減。
退職者減により退職金財団交付金が 83 百万円減となったことを踏まえた減額です。
- 8) 前受金収入 1,286 百万円。前年度予算比 61 百万円増。
2020 年度からの授業料等の改定を踏まえた増額です。
- 9) その他の収入 1,024 百万円。前年度予算比 27 百万円増。
運用資産の満期振替などを踏まえた増額です。
- 10) 資金収入調整勘定▲1,345 百万円。2 百万円減。
2019 年度新入生の授業料等の前受金予測に基づく計上です。

2. 資金支出の部

- 1) 人件費支出 3,300 百万円。前年度予算比 56 百万円増。
設置計画に基づく地域創生学科教員配置 3 名、社会共生物学部開設準備にかかる教員配置 2 名、DAC 開設に伴う教員配置 1 名の新規採用を行ったことなどにより、教員人件費が 131 百万円増となったことが主な理由です。
退職金は退職者が少ないため前年度比 92 百万円減です。
- 2) 教育研究経費 1,765 百万円。前年度予算比 88 百万円増。
 - 前年度予算比で増額が 500 万円以上となった科目と主な理由は以下の通りです。
 - ◎実験実習費支出 8 百万円増
 - ・臨床心理学科の知能検査機材更新 4 百万円。
 - ◎委託費支出 79 百万円増
 - ①在校生向け広報や学術シンポジウム広報などの教育的広報費を、(管理) 広告費から振替えたため増額 21 百万円。
 - ②地域実習Ⅲについて対象人数増に伴う増額 25 百万円。
 - ③月刊地域人の研究成果を海外に発信するため英語・仏語への翻訳費 12 百万円。
 - 当初予算比で減額が 500 万円以上となった科目と主な理由は以下の通りです。
 - ◎消耗品費支出 10 百万円減
 - ・前年度に学生対流促進事業（内閣府補助事業）にかかる拠点整備、及び、地域実習地増加に伴う用品購入を 6 百万円行ったため。
- 3) 管理経費支出 458 百万円。前年度予算比 81 百万円減。
 - 当初予算比で減額が 500 万円以上となった科目と主な理由は以下の通りです。
 - ◎光熱水費支出 6 百万円減
 - ・礼拝堂解体により電力基本料金が見直しとなり減額 6 百万円。

◎印刷製本費支出 6 百万円減

- ・ 出版計画が前年度より少ないため減額 4 百万円。

◎広告費支出 24 百万円減

- ・ 教育的広報費を教育) 委託費に振替えたため減額 21 百万円。

◎委託費支出 9 百万円減

- ・ 前年度に社会共生物学部開設に係るニーズ調査 4 百万円を実施したため。

◎寄付金支出 20 百万円減

- ・ 前年度に(社) コンソーシアムすがも花街道に 20 百万円寄付したため。

◎雑費支出 14 百万円減

- ・ 前年度に 90 周年記念事業にかかる設立宗団への還付金 14 百万円を行ったため。

4) 施設関係支出 1,201 百万円。前年度予算比 307 百万円減。

2019 年度の施設関係支出は新 8 号館の中間時金 1,200 百万円が主なものです。

5) 設備関係支出 88 百万円。前年度当初予算比 42 百万円減。

2019 年度の設備関係支出は、一般図書 53 百万円とネットワーク機器更改 31 百万円が主なものです。

6) 資産運用支出 538 百万円。前年度予算比 899 百万円減。

2019 年度は運用資産の売却を計画していないため前年度比減額となります。

7) その他の支出 320 百万円。前年度予算比 57 百万円減。

経年実績に基づく予測金額の計上です。

8) 資金支出調整勘定▲320 百万円。前年度予算比 10 百万円減。

経年実績に基づく予測金額の計上です。

◎当初予算(案)を反映した主な財務比率について(事業活動収支予算書に基づき報告)

主な財務比率を表記します。()は全国平均(平成 30 年度版「今日の私学財政」5 ヶ年連続財務比率表(医歯系大学を除く)ー大学部門ー)の平成 29 年度決算ベースの比率です。

| | |
|------------|---------------|
| 学生生徒等納付金比率 | 80.0% (80.0%) |
| 人件費比率 | 50.5% (49.2%) |
| 教育研究経費比率 | 36.7% (34.6%) |
| 管理経費比率 | 8.0% (7.3%) |

以 上